

お薬のしおり

No.173 (H28.7)

東京医科大学病院 薬剤部

白内障治療とお薬の関係について

みなさんも「白内障」という眼の病気を耳にしたことがあると思います。白内障とは、眼中でカメラのレンズのような働きをする水晶体という組織が年齢とともに白く濁って視力が低下する病気です。

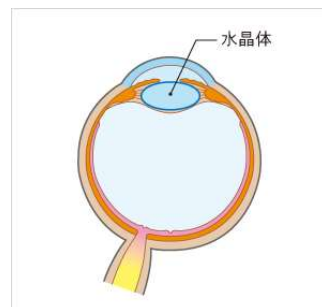
白内障の主な症状は、視界が全体的にかすむ、視力が低下する、光をまぶしく感じる、暗いときと明るいときで見え方が違うなどが挙げられます。

白内障の原因は様々ですが、加齢によるものが最も多く、「加齢性白内障」と呼ばれています。早い人では40代から発症し、80歳を超える頃にはほとんどの人が何らかの白内障の状態になっており、90歳を超えるとほぼ全員が白内障になっているとされます。そこで今回は、白内障の治療と白内障の手術を受ける際に注意の必要なお薬についてご紹介します。

白内障の治療は、病状の進行段階によって異なり、お薬による治療や手術による治療があります。

●お薬による治療●視力の低下や目のかすみが生活に支障がない初期の段階では、ピレノキシン製剤（商品：カリーユニ **院外専用**、カタリン）やグルタチオン製剤（商品：タチオン **院外専用**）などの点眼薬による治療を行います。これらのお薬は、水晶体を透明に戻すのではなく、白内障の進行を抑えることを目的に使用されます。

●手術による治療●白内障が進行して生活に支障がみられる場合には、外科的手術が行われます。一般的には「超音波乳化吸引術」と呼ばれる、濁った水晶体を超音波で粉碎して取り除き、その代わりに人工水晶体である眼内レンズを挿入する手術が行われます。白内障の手術は多くの患者さんが安心して受けることができる手術の1つで、手術を受ければ、視力の回復が見込める病気です。但し、人工的な眼内レンズにピント調節機能はないため、手術後もメガネなどによる視力の矯正が必要な場合があります。



●白内障の手術を受ける際に注意の必要なお薬●

白内障の手術を受ける際に、他の疾患などでお薬を服用されている場合には、そのお薬の内容を医師または薬剤師へお伝えしていただくことが重要です。

白内障と一見関係のないお薬でも、手術に影響を与える可能性のあるお薬（前立腺肥大症、高血圧症、統合失調症治療薬の一部）があります。

例えば、前立腺肥大症のお薬で、排尿困難や頻尿の症状に対して、 $\alpha 1$ 受容体遮断薬（タムスロシンなど）が使用されることがあります。これらのお薬は、前立腺や尿道の筋肉を緩め、排尿困難や頻尿、尿意切迫感などの症状を改善する働きがあります。白内障の手術で人工レンズを入れるには水晶体の手前にある瞳孔を開く（散瞳）必要がありますが、前立腺肥大症のお薬を飲んでいて手術を行った場合に、そのお薬が眼の筋肉にも影響してしまうことで人工レンズが入れにくくなってしまふことがあります。このような手術の際の合併症を「術中虹彩緊張低下症候群（IFIS: intraoperative floppy iris syndrome）」と呼びます。前立腺肥大症以外のお薬でも同じような作用をもつお薬（下記表参照）についても同様の注意が必要となります。

<表：添付文書に術中虹彩緊張低下症候群の注意喚起の記載があるお薬>

分類	成分名	商品名（当院採用薬名のみ）
前立腺肥大症	タムスロシン塩酸塩	タムスロシン
	ナフトピジル	フリバス
	シロドシン	ユリーフ
	ウラピジル	エブランチル
高血圧症	ドキサソシンメシル酸塩	カルデナリン
	ブナゾシン塩酸塩	デタントールR（院外）
	ラベタロール塩酸塩	トランデート
統合失調症	パリペリドン	インヴェガ
	リスペリドン	リスパダール
	パリペリドン	ゼプリオン

上記のお薬を飲んでいる方が必ずしもIFISになるわけではありませんが、普段からおくすり手帳などを持参し、他の科のお薬として何を服用されているかを医師へ報告していただくことで、手術前に瞳孔を開きやすくする点眼薬を使うなど、事前に対処することも可能となります。

お薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には、医師又は薬剤師までご相談ください。

